

# 市議会

定例市議会  
12月8日～21日

■ 臨時市議会・12月定例市議会に上程された議案はいずれも原案どおり可決されました。

■ 12月定例市議会では、閉会中の継続審査となっていた「平成21年度一般・特別会計の決算関係議案」についても、決算審査特別委員長から審査報告を受け、すべて認定されました。

## 《臨時市議会》

### 可決された主な議案

■ 境港市一般職の職員の給与に関する条例等の一部改正

職員の給料月額を平均0.1%減額し、期末・勤勉手当の支給月数を年間4・15月から3・95月へ引き下げるとともに、勤勉手当のない市長、副市長および教育長につきましても、期末手当の支給月数を年間3・1月から2・95月へ引き下げました。

### 議員提出議案

■ 境港市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について  
期末手当の支給月数を年間3・1月から2・95月へ引き下げました。



## 《12月定例市議会》

### 市政概要 要報告

#### 平成22年度の財政見通し

歳入におきまして、不況の影響により、個人市民税や法人市民税は当初予算額に比べ減額が見込まれ、自主財源の根幹をなす市税収入総額は、予算額に見合う額の確保は困難な見通しであります。

しかしながら、普通交付税が当初予算額を約3億6千万円上回る32億6千万円余の決定額となったことから、国庫補助金など歳出に連動した収入以外の、いわゆる一般財源の総額は、予算額に見合う額を確保できるものと見込んでおります。

歳出につきましては、予定しております諸事業は、概ね順調に実施できるものと考えております。なお、国の補正予算に伴う経済対策等の諸施策にも、今後、時期を逸することなく対応してまいる所存であります。

#### 平成23年度予算編成方針

国の財政は、国債残高が過去20年間で約470兆円増加するという極めて厳しい状態です。新年度予算編成においても、不況の影響により、さまざまな財政需要に十分に応える税収を見込むことは困難であり、国債発行に頼らざるを得ないという状況に変わりなく、深刻度が増しています。

一方、地方においても、国と同様に、景気悪化に伴う税収の落ち込みや社会保障関係経費などの増加により、収支のアンバランスに苦慮している厳しい財政事情であります。

本市の財政状況を見ますと、平成15年度から取り組んでいる行政改革によって、一時期の危機的な状況から脱した感はありますが、夕日ヶ丘団地の開発に起因する過大な債務が残っていること、また、今後、第二中学校の改築や中海護岸整備に伴う関連事業など大型投資事業を控えていること、などを考慮いたしますと、未だ将来にわたって楽観できる状況ではありません。



このような状況の中、平成23年度の予算編成は、これまでと同様、自立持続可能な財政基盤を確立するために策定した「中期財政計画」の財政運営方針を基本とし、引き続き規律ある財政運営に心がけ、社会保障関係経費等の増加を歳出全般の効率化によって出来るかぎり吸収し、本市の身の丈にあった予算の編成を行っていく考えであります。

しかしながら、地域活性化を図るための諸施策や喫緊課題への時宜を得た対応のほか、市民生活に密着したサービスの維持にも最大限配慮していく所存であります。

## 環 日本海 交流

環日本海定期貨客船につきましては、9月26日から境港への寄港回数が週2便から1便に変更されました。

週1便に変更されて2カ月が経過いたしますが、変更後の境港・東海間の1便あたりの旅客数は平均229人と堅調に推移しており、航路開設から11月末現在までの旅客数累計は4万2,182人です。

しかし、このうち日本人は、453人とどまっており、日本人旅客の増加を図る必要があると考えております。



韓国・ロシアからも参加した「きたろうカップ駅伝」

10月のきたろうカップ境港駅伝競走大会への東海、ウラジオストク両市の駅伝チームの招へ

い、11月の経済界を中心とした東海市訪問や東草および東海市企業との商談会など、航路を利用した交流が行なわれておりますが、寄港地間の更なる相互交流の促進や定期貨客船と米子・ソウル便を利用した旅行商品の造成に向けた働きかけなどを通じて、日本人旅客の増加を図ってまいります。

また、貨物量につきましては、依然として十分な量の確保には至っていないものの、安定運航が継続されていることから航路の信頼性も一段と高まっており、ロシア向けの機械類を中心に増加傾向にあります。

米子・ソウル便につきましては、平成13年4月の就航以来、今年の10月で搭乗者累計が30万人に達しました。複数の旅行会社からは記念旅行商品が販売されるなど、さらなる需要喚起が図られております。

さまざまな利用促進策により12月以降の予約率も増加傾向にあり、3月までの冬季運航スケジュールも、現行と同様に週3往復の運航継続が決定されております。

引き続き海と空の国際定期便の安定運航を維持するために、関係機関と共に利用促進を図ってまいりたいと考えております。

## 観 光 振 興

「水木しげるロード」の観光入込客数は、NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」放映終了後も、依然好調な状況が続き、10月31日には、年間入込客数が300万人を突破いたしました。さらに、水木しげる先生が「文化功労者」に選出されるという大変喜ばしい知らせが届き、発令日の11月4日には、この二

重の快挙を祝う記念式典を「水木しげるロード振興会」、「境港市観光協会」と共に水木しげる記念館で開催し、水木先生に名誉館長を務めていただいている同館を一日無料で開放する企画とあわせ、市民の皆様と共に喜びを分かちあつたところであります。



水木しげるロード300万人突破を祝う

本市は、「水木しげるロード」に加えて、新鮮な海の幸や、白砂青松の弓ヶ浜など観光振興につながる多くのポテンシャルを有しており、これらを総合的に

捕らえた新たな観光戦略を練ることを目的に、8人の若手・中堅市職員で構成するプロジェクトチーム「境港市観光振興・調査研究委員会」を立ち上げたところであります。この委員会できりとまとめる構想を基に、観光関係者による検討委員会でご議論いただき、本年度内に「境港市観光振興プラン」を策定することとしております。



観光戦略を練るプロジェクトチーム

## 水 産 業

境漁港における本年1月から10月末までの水揚量は、9万3千トン余で、前年同期と比べ96%となっており、春先のしけの影響もあり、かなり低調な水準で推移しましたが、1日に1,000トン以上水揚げされた「大漁日」が10月に9回・11月に6回記録され、前年並に盛り返したところであります。しかし、水揚金額に関しまし

ては、夏のクロマグロの水揚げの減少等により120億9,600万円余で、前年同期と比べ大きく下回っている状況であります。

クロマグロ漁に関しましては、近年、資源管理について多方面から高い関心が集まっており、国は本年度中に資源回復計画を策定し、平成23年度からの実施を目指し、現在、漁業関係団体等との意見交換を重ね、具体的な管理方策について検討されているところであります。

また、生産から加工、流通に至る構造を改革し、コスト削減と収益性を向上させるための「境港地域水産業構造改革推進プロジェクト」につきましては、「ベニズワイガニ漁業」、「まき網漁業」の改革計画に続き、「沖合底びき網漁業」に関する改革計画策定に向け、10月に部会が立ち上がり、現在準備が進められているところであります。



かにラーメンなど新メニューを開発